

VUCA（ブーカ）の時代を生き抜くために

校長 村井 浩昭

ChatGPT という OpenAI 社が開発したチャットサービスに「高等学校の進路の手引巻頭言」と打ち込むと次のような回答が得られた。

「高等学校を卒業する生徒の皆さんにとって、進路選択は人生の中でも重要な決断の一つです。進路選択には自己の能力や興味、将来の夢や目標、そして社会的な状況など、多くの要素が影響します。この手引は、進路選択において必要な情報やアドバイスを提供し、生徒たちが自己の能力や興味に合わせて適切な進路を見つけるための手助けをすることを目的としています。高等学校で学んだことを基礎とし、進路選択に必要な情報や能力を身につけることで、社会での自立した生活や自己実現につながることを願っています。」

なんとなくよそよそしさを感じるが、こじんまりとした文章で、間違っただけは書かれていないし、『進路の手引』の趣旨を逸脱もしていない。これは、すなわち AI が作成した文章である。昨年 11 月に ChatGPT が公開されるやいなや、生成した文章の見事さや人間味のある回答が SNS などで話題となり、リリース後わずか 2 か月で世界のユーザー数 1 億人を突破した。更に今年に入ると Microsoft が開発元の OpenAI に対して 100 億ドルを投資するということが報じられている。3 月末には、国会審議でも ChatGPT で質問案が作成され、史上初の AI を用いての質問がなされた。物議も醸し出しており、イタリアでは、プライバシーに関する懸念を理由として一時的にブロックされた。日本では、4 月になって文部科学省が取り扱いを示すガイドラインの検討を始めた。読書感想文や論文などで、作文が一瞬で完成することなどから、文章力や思考力に悪影響を及ぼすとの懸念もあるからである。ここまで話題になると、今年の流行語大賞に確実にノミネートされるのではないかと思う。AI が人に変わっているいろいろな分野に進出することはすでに言われ続けていることであるが、世の中に出回っている様々なことが気付かないうちに AI の仕業に置き換わってしまっているのではないかと不安を感じている。

「VUCA（ブーカ）」という言葉聞いたことがあるだろうか。これは、「Volatility：変動性」「Uncertainty：不確実性」「Complexity：複雑性」「Ambiguity：曖昧性」の頭文字をとって作られた造語である。1990 年代頃、戦略が複雑化した状態を表す軍事用語として使われ始めたが、2010 年代からビジネス用語として定着し、市場、組織、個人などあらゆるものを取り巻く環境が変化し、将来の予測が困難になっている状況を意味するようになった。まさに現代は「VUCA（ブーカ）」の時代である。

新学習指導要領では、変化の激しい社会を生き抜いていくために、よりよい持続可能な社会の作り手の育成が求められるようになっている。「VUCA（ブーカ）」の時代を生き抜く力を身に付けさせたいというわけである。社会は驚異的なスピードでアップデートしていくのに、学校がアップデートされないのでは、学校としての信頼を失ってしまう。『学校と社会』の著者として有名な教育者デューイ（1859～1952）の言葉に「昨日の教え方で今日教えれば、子どもたちの明日を奪う」があるが、今の時代こそ目まぐるしい変化の中、この言葉がより一層重みを増しているように感じる。AI の学習量に人間は到底かなわないので、前例踏襲の仕事は AI に任せるとして、人間でなければできないことを学校でいかに育むかということが重要課題である。そのために、本校では、重点努力目標を「情理を尽くし、自ら考え、行動する生徒を育成する—精神（こころ）を修め、知と技を練る吉田高校—」として、育みたい資質・能力に、思考力・創造力・社会性・主体性・規範意識・人権意識を掲げている。「情理を尽くす」というのは、相手の気持ちを大切にしながら道理にかなった行動をとるということである。「精神（こころ）を修める」ことが情的感受性の育成、「知と技を練る」ことが理的感受性の育成であり、「情理一体」こそが、人間にしかできない非連続な新しい事態に対処する根幹だと考えている。

学校生活を通して思考力・創造力・社会性・主体性・規範意識・人権意識をバランスよく身に付け、その先の未来に、人間として何ができるのか、何がしたいのかじっくりと考えることが進路探究である。

この「進路の手引」には、本校特有の進学や就職に関する情報や先生方や先輩たちのアドバイスが詰まっていて、生きた声が届いてくる。

この冊子は、将来という進路先の具体的な参考書となる。